

# きりん組だより 特別編

R4. 12. 01 発行

今回は特別編！発表会をもっと楽しむためのポイントを担当なりに、幼児教育の視点と照らし合わせながら解説いたしますので、ご一読ください😊

## その① 魅せる発表会からの脱却

発表会というと、かわいい、キラキラした衣装を着てお遊戯を踊るイメージでしょうか。そういったものも、見栄えが良く素敵ですが、本来、発表会というのは、生活や遊びの延長であり、先生が教え込むものではありません。特に、年長児においては、自分たちが主体的に取り組むことで、単なる行事ではなく、学びの深い経験となっていくべきです。

## その② いろいろな表現の仕方

興味や関心をもったことに、積極的に関わり、発表会に向けて自分たちの考えや思いを形にしていけることを楽しんでいます。表現の仕方は様々。どんな表現の方法があるのか、みんなで考えました。「こんな風にやりたい...」「これが必要...」などイメージや思いを実現するために友達や先生と作ったり、練習したり...。それが、上手いかなかったり、成功したり...。新たなアイデアが生まれて、みんなで試して...。そんな毎日です☆

## その③ バラバラと思いきや...

やることが決まってくると、一人一人が自分の役割をもって、得意なところや、やりたいことに向かいます。一見、バラバラに活動しているように見えますが、みんなで共有することによって一人一人の行っていることが、全て『クラスのため』につながっています。こういった姿は、自分のことだけでなく、周りが見えるようになる、年長児ならではの姿でしょうか。

## その④ 思いがぶつかり合うことも少なく...

運動会の話し合いの場面では、思いがぶつかり合うこともありますが、発表会へ向けての活動では、「それ、いいね!」「くんは、絵がうまいな〜!」などと互いの考えや良さを認め合いながら、進めていく姿が多くなり、友達とのやり取りに、子どもたちの成長を感じます。

## その⑤ 一人一人のやりたい思い

今のところ、演目は、大きく3つのグループに分かれていて、どれも自分たちで考えたものです。①物語が中心のグループ。②ダンスを中心としたグループ。③研究と題した、興味のある事柄を調べて発表するグループ。実は、一つのテーマにじっくり関わる子もいれば、全部やりたくて、全てのグループに参加している子もいます。学び方は異なりますが、それぞれのやり方で、興味・関心へと向かい試行錯誤しているところを大切に感じてほしいと思います。

## ※担任の願い※

最後に、今年度のきりん組は、今までの発表会から趣向を変えて、子どもの主体性に重点を置いて活動を進めてきました。保護者の方の中には、物足りなさを感じる方もいるかもしれません。それでも、子どもたちが自分たちで考え、工夫しながら、一生懸命に進めてきたことをご理解いただき、お子様に温かいお声を掛けていただければ幸いです。

当日の懇談会では、保護者の皆様のご意見もお伺いしたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

タブレット貸して！自分たちで調べて踊りも考えるから！



ボク、棒を作るのは、得意だからここは任せてよ！

先生！こういうやつが欲しいんだけど、難しいんだよ！

オッケー！じゃあ、一緒に作ろう！

自分たちで考えるのって難しいんだな...

なるほど。そういう作り方もあるんだね。

もうちょっと大きくしないと、お客さん、見えないかな？

俺たち、やっぱり、ダンスはどうしてもやりたいんだよ！

ぼくたちは、ねこだよ！

どんな言葉にしようか？

ぼくは、調べたことを、お家の人たちに発表したいんだ！



